

## <中学校音楽部会>

### I 研究主題

「一人一人の生徒の音楽活動を豊かにする指導と評価」

### II 研究の概要

生徒一人一人の音楽活動を豊かにするためには、指導と評価の一体化を図り、個に応じた指導の在り方について、考えていく必要がある。しかしながら、音楽における指導と評価の一体化については、生徒の主体的な学習と、評価を生かした指導との関連がわかりにくい。その点を究明するとともに、評価を生かした指導についての一般化を図ることが求められている。

そこで、指導と評価計画の工夫・改善と活用についてより具体化を図るとともに、個に応じた指導方法の在り方について、表現（歌唱・器楽・創作）鑑賞の内容について研究開発を進めた。

### III 研究の内容

平成13年度は、評価規準の設定と評価方法について、また平成14年度は年間指導計画例の中で、題材と学習指導要領の示す指導内容及び評価の4つの観点とのかかわりを例示した。これらの研究成果の上に立ち、平成15年度は、4つの観点毎に目標の実現状況を的確に把握するための方策及び、音楽活動を豊かにするための評価の在り方について以下の研究をした。

#### 1 題材の評価規準に照らした目標の実現状況の的確な把握について

##### (1) 適切に評価するための方法の研究

###### ア 観点1 「音楽への関心・意欲・態度」

主にワークシートを用いて、効果的な指導とその評価方法を具体的に事例研究した。

###### イ 観点2 「音楽的な感受や表現の工夫」

観点の意図を明確にして、毎回の評価を生かした継続的な学習指導の方策を探った。

###### ウ 観点3 「表現の技能」

集団の中での、個の評価を行う評価事例を検証した。

###### エ 観点4 「鑑賞の能力」

鑑賞の指導とその評価を、音楽活動に生かす研究をした。

#### 2 個に応じた学習指導の工夫・改善について

##### (1) 目標準拠の評価について

特に、実現が不十分な生徒に対する指導の工夫などについて、指導事例で扱った。

##### (2) 自己評価について

主に学習カードなどを用いての、自己・相互評価の適切な方法について研究した。

#### 3 題材における生徒の変容による指導と評価の検証について

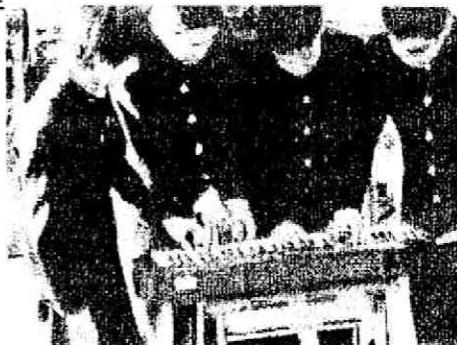
題材での評価の場面については、ポイントを絞り、まず生徒へ働きかけを行い、そしてさらにその後の生徒の変容を評価する場面を設定し、検証した。評価の場面を通して、生徒一人一人の音楽活動を支え、学習指導の充実を目指し、事例の展開を行った。

#### IV 指導事例

##### 1 評価事例1 【音楽への関心・意欲・態度】 第2学年

(1) 題材名 「音と音のかかわり合いの面白さを知ろう」

教材 「カエルの合唱」 (器楽)  
 「踊る少女」 (二部合唱)  
 「夢の世界を」 (混声三部合唱)  
 「小フーガ ト短調」 (鑑賞)



(2) 題材の目標

- ア 声部の役割を感じ取り、リズム、旋律、和声を生かした表現の工夫をする。  
 イ 多声音楽と和声音楽の違いを感じ取る。

(3) 評価規準

	観点1 (音楽への関心・意欲・態度)	観点2 (音楽的な感受や表現の工夫)	観点3 (表現の技能)	観点4 (鑑賞の能力)
満お 足お のむ 例ね	・各教材に積極的に取り組み、音楽の違いを理解しようとしている。	・自分のパートの音程、リズムに注意しながら歌っている。	・カノンの仕組みを理解して、両手で二声にして演奏できる。	・多声音楽と和声音楽の違いを感じ、面白さを味わえる。

(4) 評価事例

指導内容	学習内容	評価規準	おおむね満足の具体例	評価方法
・カノンの仕組みを理解し、音の重なる面白さを知る。	・「カエルの歌」をカノンにして、両手で演奏する。	・楽曲に興味をもち、仕組みを理解して、キーボードで適切に表現できる。 A 表現(1)キ (観点1)(観点3)	・自ら積極的に練習し、両手でカノンにして演奏できる。	・練習への取り組み方 (観察法) ・実技テスト (観点1) (観点3)
・旋律の掛け合いの面白さを知る。	・「踊る少女」、「夢の世界を」の各声部の音程リズムを、正確に歌う。	・自分のパートの音程、リズムに注意して歌う。 A 表現(1)エ (観点2)	・自分の声部の役割を理解し、他のパートと歌うことができる。	・ワークシートによる自己評価 (観点1) (観点2)
・多声音楽と和声音楽の違いを味わう。	・各声部に現れる主題のかかわりを感じながら聴く。	・旋律のかかわりに興味をもち、旋律のかかわりを理解し、楽曲全体を味わって聴くことができる。 B 鑑賞(1)7 (観点1)(観点4)	・多声音楽と和声音楽の特徴を、自分の言葉で表現することができる。	・発表及びワークシートによる記述法 (観点1) (観点4)

(5) 個に応じた指導事例

<ワークシート> おおむね満足できる例

関心・意欲・態度を高めるための指導

「カノン」から「小フーガ」へ 自己評価カード

月日	教材名	自己評価の観点	自己評価	先生の印
	カエルの歌	一人で弾くことができる。	O	
	カエルの歌	A: 二人で四声にして間違えないで弾くことができる B: 一人で両手で弾くことができる。 C: 一人で両手で弾くことができない。	C	
	踊る少女	A: 3拍子のリズムを感じ、他のパートを聴いて歌っている。 B: 自分のパートの音程リズムに注意して歌っている C: 音程・リズムがなかなかとれない。	B	
	小フーガ ト短調	A: それぞれの声部にあらわれる主題(テーマ)を聞き取ることができる。 B: 主題を聞き取ることができない。 C: 主題がよくわからない。	A	

「カノンの仕組み」を理解させるために、  
「紅葉」などの曲を使い、その効果や面白さを感じ取らせる。

キーボードを使い、積極的に練習しているか、関心・意欲を評価する。一人でできない場合は、友達と片手ずつ行い、「音と音のかかわり」の面白さを知らせる。技能だけに偏らないよう配慮する。

多声音楽と和声音楽の違いは何か考えてみよう。

多声音楽はメロディーの繰り返しがあるのでよく似ている双声と  
たがえるのは、和声音楽はメロディーと伴奏があるので互いに助け  
あう「兄弟」や「家族」とたとえられると思いました。

多声音楽と和声音楽の違いを自分の言葉や身の回りの物に置き換えて表現できているか、意見を自由に発言させ、色々なとらえ方があることを知る。発表や取り組みの様子を評価する。

☆おおむね満足できる回答例

・多声はトゲトゲしたコーラか炭酸飲料のよう。和声はまるやかなお茶。

・多声は「ときめき」、

和声は「やすらぎ」など。

「小フーガ」の感想を書いてみよう。

手も足も使い、4声を一人で演奏するのは難しいけれど、曲は  
素晴らしいので、聞かせるのがいい曲だと思いました。  
ぜひ生演奏で聞いてみたいと思いました。

<ワークシート> 十分満足できる例

多声音楽と和声音楽の違いは何か考えてみよう。

多声音楽はメロディー対メロディーの競走(直走)みたいで、  
和声音楽は主のメロディーとはんぞうの共同作業のような感じ。同じメロ  
ディーがついてくると、速く音がくるのがわかる。多声音楽は「競」  
和声音楽は「協」のちがいが、運動会のリレーと競走が多声音楽と  
且体操や、玉入れが和声音楽、と感じ?。でも競走と体操のちが  
いは、競走は競争、体操は協調、だから競走は多声、体操は和声、  
というのが結論です。

音楽の構成や、形式などにも気付いた感想を十分満足できる回答とした。 ☆例

多声は「競」 個人と

和声は「協」 団体の違い。

多声は一つのメロディーがからみ合い、そこに「ずれ」ができる。

和声はいろいろな音が重なって、重さが違うと思う。

「小フーガ」の感想を書いてみよう。

初め聞いた時はとても強いイメージの曲で、それだけ途中から  
わかっていく感じが、新鮮な感じ。片方の足でしかたは先で  
聞き分けたいのを見ておもしろい。けんけんが△段もあることか  
が、なかなかおもしろい。ストーリーとかさうし、パートも全部  
おもしろいと思える。

実際の生徒の様子

・器楽・歌唱・合唱を通して、音と音のかかわりあいの面白さを知り、より深く「小フーガト短調」を味わうことができた。

・「カエルの歌」の両手演奏は多くの生徒が興味を示し、積極的に練習する姿がみられた。短期間に約80%以上の生徒が両手で弾けるようになり、意欲の向上が見られた。

## 2 評価事例2 【音楽的な感受や表現の工夫】 第3学年

(1) 題材名 「声部の役割を理解し、全体の響きに調和させて合唱をしよう」

教材 「大地讃頌」 (混声四部合唱)

(2) 題材の目標

ア 楽譜を読み取り、自ら音楽を創りあげる表現の能力を養う。

イ 混声四部の豊かな響きを味わう。

(3) 評価規準

	観点1 (音楽への関心・意欲・態度)	観点2 (音楽的な感受や表現の工夫)	観点3 (表現の技能)	観点4 (鑑賞の能力)
おおむね満足の例	・授業の目標達成に向けて、楽譜への書き込み作業や、表現の活動に取り組んでいる。	・楽譜を読み取ったり、範唱を聴き、感じ取った音楽や表現の特徴、「こう表現したい」と思った内容を書き込みしている。	・観点2の内容を表現するために、発声練習・パート練習・合唱活動を活かした表現をしようとしている。	・旋律と旋律のかわり合いや、音楽の構造を理解しながら、合唱曲を味わって聴いている。

観点2の評価は、下記の方法で、生徒一人一人が音楽をどのくらい感受しているかを、簡単に把握することができる。音楽を構造の上でとらえることができるか、又、盛り上がりや聴かせ所をとらえる感受性を育てることは、生涯にわたって様々なジャンルの音楽を愛好する生徒を育てていく我々音楽科が、最も力を入れたい部分である。なぜならば、「音楽的な感受や表現の工夫」がなくしては、観点3の「表現の技能」も存在し得ないからだ。

以下(4)にて合唱活動を例とした評価事例を示す。なお、観点3の評価のための楽譜回収は、2回以上行わなくてはならない。それは、生徒に評価の内容を還元するためである。

(4) 評価事例

指導内容	学習内容	評価規準	おおむね満足の具体例	評価方法
・楽曲の構成をつかみ、楽曲の良さを感じ取らせる。	・範唱CDを聴き、楽曲の盛り上がりや、美しいなど感じる部分を見出し、楽譜に記入する。	・楽曲の構成や、音楽の表現要素を理解し、曲の雰囲気を感じ取っている。 A 表現(1)キク (観点2)(観点4)	・自ら感じ取った部分に記入がつけられている。	・楽譜記入
・表現するための、工夫する点を見出す。	・曲想の付け方に工夫がみられたり、工夫して表現している部分、又、表現のために必要なテクニックを見出し楽譜に記入する。	・鑑賞としてではなく、表現をするための工夫点や技術のアイデアが見出せている。 A 表現(1)ア・イ (観点4)	・自ら感じ取った部分に記入がつけられている。	・楽譜記入

(5) 個に応じた指導事例

ア 回収をした楽譜で「達成不十分」であった生徒が、指導後の提出でどんな感性が伸び「おおむね満足」となるか実践例を示す。太字が教師の書き込みアドバイスで、この生徒には文章表現法のアドバイスも入っている所に注目されたい。

次回までに書き足しておく内容...

Grandioso ♩-75 の音楽的に魅力的な部分(理由)の歌いの注意点



色がついているだけで、自分の言葉がない。

次回までに書き足しておく内容...

Grandioso ♩-75 の音楽的に魅力的な部分(理由)の歌いの注意点



自分の言葉が入るようになった。

イ 次に「十分満足できる」と評価される書き込みについて、二例紹介する。



楽曲の良さに深く感銘を受け、その理由付け(この場合構造に気付いている)がきちんとされている。



表現の為の工夫点に気付き、それに必要な歌唱技術まで考えている。

### 3 評価事例3 【表現の技能】 第2学年

(1) 題材名 「速度と強弱の変化と効果」

教材 「時の旅人」 (混声三部合唱)

(2) 題材の目標

速度や強弱の変化による音楽の特徴とその効果を理解する。

(3) 評価規準

	観点1 (音楽への関心・意欲・態度)	観点2 (音楽的な感受や表現の工夫)	観点3 (表現の技能)	観点4 (鑑賞の能力)
お お む ね 満 足 の 例	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の速度や強弱に関心をもち、進んで歌ったり聴いたりしようとしている。</li> <li>速度や強弱の変化による音楽の特徴と効果を感じ取り、表現に生かそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の速度や強弱の違いによる特徴を感じ取ることができる。</li> <li>音楽の多様さを感じ取り、その効果を表現する工夫ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽曲に指定された正しい速度や強弱で歌うことができる。</li> <li>曲にふさわしい速度や、強弱の変化による表現ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>速度や強弱の変化による表現の効果を感じ取ることができる。</li> </ul>

(4) 評価事例

指導内容	学習内容	評価規準	おおむね満足の具体例	評価方法
・範唱鑑賞	省 略			<ul style="list-style-type: none"> <li>観察</li> <li>ワークシート</li> </ul>
・パート練習	・各声部の音程を正確に歌う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>旋律の速度や強弱の変化を感じ取り、正しい音程で歌っている。</li> <li>A表現(1)ㄱ (観点3)</li> </ul>	・正しい音程で歌うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワンフレーズテスト</li> <li>(観点3)</li> </ul>
・パート練習 ・パート内発表	省 略			<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>観察</li> </ul>
・表現の工夫	・曲にふさわしい速度や、強弱を工夫して歌う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>旋律の速度や強弱の変化を曲想に生かし、ふさわしい表現をすることができる。</li> <li>A表現(1)ㄱ (観点3)</li> </ul>	・変化する要素を意識して歌っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワンフレーズテスト</li> <li>(観点3)</li> </ul>
・まとめ	・速度や強弱の働きを生かして、表情豊かに合唱する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の声部とのかかわりや和声的な響き、速度、強弱に気を付けて表現することができる。</li> <li>A表現(1)ㄱ (観点3)</li> </ul>	・音程が正しくとれ、変化する要素を意識して表現している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>観察</li> <li>合唱個人達成カード</li> <li>(観点3)</li> <li>まとめのテスト</li> </ul>

(5) 個に応じた指導事例

♪「ワンフレーズテストカード」 教材『時の旅人』

要素	テスト部分	先生チェック
音程	めぐるめぐる風～会いに行こう	
強弱	すべてのものが友達だった頃	
速度	やさしい雨に打たれ緑がよみがえるように	



- \*十分満足できる生徒⇒音程・強弱・速度が、人に伝わるように歌っている。
- \*おおむね満足できる生徒⇒音程・強弱・速度を意識して歌っている。
- \*達成不十分な生徒⇒聴き取れない。



教師と一緒に歌う。

♪「合唱個人達成カード」

日付		/	/	/	/	/
合唱中	自己チェック	( )	( )	( )	( )	( )
	真剣度・集中度・態度					
	つられない度					
	のめりこみ度					
	詩の理解度					
	先生チェック					
今日出来たことや次回練習したい内容を書こう。						

自分で記入する。

- 确实 ◎
- 部分的にできた ○
- まだまだだ △

- \*十分満足できる生徒⇒他のパートにつられずに歌い、リズムが正しく子音がはっきりした発音で、声量もある。
- \*おおむね満足できる生徒⇒各チェック項目に対し努力している。
- \*達成不十分な生徒⇒聴き取れない。



教師がその場で具体的にアドバイスする。



一列目はつられてないか、二・三列目は先生のところまで声が届くか同時にチェック中

#### 4 評価事例4 【鑑賞の能力】 第1学年

##### (1) 題材名 「イメージと音楽」

教材 交響詩「ローマの松」より「アッピア街道の松」 レスピーギ作曲

##### (2) 題材の目標

ア 管弦楽の多彩な響きを味わい、想像豊かに音楽を鑑賞する能力を育てる。

「B鑑賞(1)ア」…様々な音と音とのかかわり合いによって生まれる楽曲の雰囲気や曲想を感じ取る。

イ 速度や強弱の働き及びそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取らせる。

「B鑑賞(1)イ」…速度や強弱が生み出す雰囲気や曲想によって、緊張や弛緩、動的や静的、雄大や繊細さ、安堵感や焦燥感など様々な個人のイメージや感情が引き出される。



イメージや感情を自分なりの言葉、図形、動作などで表すことによっても、音楽の特徴や特質をとらえ、意識するための有効な活動となり、その感じ方や表し方は個人によって違いがあることに気付かせることができる。

##### (3) 評価規準

	観点1 (音楽への関心・意欲・態度)	観点2 (音楽的な感受や表現の工夫)	観点4 (鑑賞の能力)
満お 足お のむ 例ね	・管弦楽の多彩な響きに興味をもって聴いている。	・音楽の表現要素が生み出す雰囲気や曲想を感じ取っている。	・速度・リズム・強弱の働き、及びそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を総合的に理解して聴いている。

##### (4) 評価事例

指導内容	学習内容	評価規準	おおむね満足の具体例	評価方法
・曲の冒頭部分を聴かせ、第一印象をとらえさせる。 ・意見を板書する。	・自由な発想で曲をとらえ、特徴を短い言葉で表す。 ・メモを発表する。	・進んで鑑賞活動に取り組み、興味をもって聴いている。 B鑑賞(1)ウ (観点1)	・興味をもって聴き、曲の特徴をメモすることができる。	・観察 ・ワークシート …1 B鑑賞(1)ウ (観点1)
・全曲を聴かせ、なぜそのように感じたかを考えさせる。	・メモをとる。 ・グループで意見交換をし、発表する。 ・曲想と諸要素の働きを知る。	・音楽の表現要素が生み出す雰囲気や曲想の変化を感じ取っている。 B鑑賞(1)イ (観点2)	・全曲を聴き、曲の雰囲気の変化を速度・リズム・強弱の働きの変化と関連付けてメモがとれている。	・観察 ・ワークシート …2 B鑑賞(1)イ (観点2)
・全曲を聴かせ、諸要素の変化を確認する。	・全曲を総合的に鑑賞する。	・曲の雰囲気や曲想の変化を総合的に理解して聴いている。 B鑑賞(1)ア (観点4)	・始めに気付かなかったことの気付が見られ、音楽の諸要素の役割が総合的に理解できている。	・ワークシート …4 B鑑賞(1)ア (観点4)

(5) 個に応じた指導事例

◎音楽鑑賞とは・・・音楽の美を享受すること。

=音楽を聴き、音楽の美しさを感じ取り、その良さを味わうこと。

●観点4

速度・リズム・強弱の働き、及びそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を総合的に理解して聴いている。

<ワークシート>

1年組 番氏名

1. 第1印象をまとめよう。(曲の冒頭部分)

[Blank box for student response]

2. 全曲を聴き、曲の変化を書いてみよう。

[Blank box for student response]

3.

曲名:

作曲者:

曲名は最後まで明かさない。想像した内容を間違っていたと感じてしまわないため。

4. この作品の感想を自由に書いてください。

[Blank box for student response]

●観点1 (音楽への関心・意欲・態度) を見る。

感じたことを自由記入する。  
達成不十分の生徒⇒何も記入できない⇒机間巡視で教師の言葉かけ⇒記入のヒントを与える。「明暗」「天気」「人数」など

●観点2 (音楽的な感受や表現の工夫) を見る。

曲の冒頭から、どのような変化が見られたか。  
静か～壮大=楽器が増えた。音が大きくなった。など変化の感受が音楽の諸要素と関連付けられているか。達成不十分の生徒⇒関連付けられない⇒音楽の諸要素を強弱にポイントを絞る。

●観点4 (鑑賞の能力) を見る。

速度・リズム・強弱の働きと曲の雰囲気と変化を総合的に理解できている。3つの要素を網羅できているか。次時へのつながりはあるか。  
達成不十分の生徒⇒おおむね満足できる生徒の例を教える。  
観点1、2の振り返り。

●観点4の指導に関する3つのステップ (各観点は、互いにかかわり合っている。)

- ① 「感じ取る」段階・・・曲の気分や曲想を直感的に感じ取る・・・観点1 B鑑賞(1)ウ
- ② 「気づき・深める」段階・・・音楽を構成している諸要素の働きを知る・・・観点2 B鑑賞(1)イ
- ③ 「味わう」段階・・・楽曲の良さを総合的に鑑賞する・・・観点4 B鑑賞(1)7



生徒の反応は・・・

- ① 「何かが近づいてくる」「不気味」「何かが段々増えてくる」等
- ② ①の理由を探る⇒「規則的なリズム」「楽器が増える」「pからfになる変容」等
- ③ ①②の学習を参考に全体的に理解して聴くことができる。  
なぜ①のように感じるのか探り、理解して鑑賞することができる。

## V 研究のまとめ



平成14年度の研究の成果をふまえ、評価の観点が明確となった年間指導計画に基づき、個に応じた指導に生かす評価の研究を進めた。

学習指導要領に則り、授業の流れをもう一度見直し、どのような場面で評価し、生徒の意識を高めていくかを工夫していくことが大切なことである。さらにそれは継続的に行われなければならない。そのためのポイントを授業の実践を通して検証し、応用できる事例としてまとめた。

### 1 指導事例についてのまとめ

#### (1) 「音楽への関心・意欲・態度」

この観点の評価については、特に他のすべての観点との相互的な係わり合いを考えなくてはならない。その上で、それぞれの題材毎の評価規準を設定し、単に「声を出しているから」などの、外観や印象にもとづいて評価することは避け、観点1として設定した規準に照らして適正に評価することが大切である。

#### (2) 「音楽的な感受や表現の工夫」

音楽的な感受とは、音楽活動の基礎的な力であり、表現の工夫をするための感覚であると考えた。そして、生徒のその感受性に働きかけることによって生まれる変容を、何より丁寧に育てていかななくてはならない。

指導事例で取り上げた楽譜への書き込みの指導と、その継続的な評価は、読譜力を高めていく上で効果が大きい。

#### (3) 「表現の技能」

特に合唱指導においては、集団の中での個の評価が難しい。指導事例では「ワンフレーズテスト」を取り上げ、その効率的な活用方法について検証した。この方法の優れた点としては、授業の流れを損なうことなくパート練習時に短時間で行うことができ、個々の指導に有効なことがあげられる。また、評価する点が明確なため、それぞれの課題がよくわかり、次の学習への励みとなる。

#### (4) 「鑑賞の能力」

指導事例でふれたように、「楽曲を聴く」ことが単に観点4の評価につながるわけではない。各観点とかかわりながら、総合的に理解して聴くことが、鑑賞の能力である。したがって、題材のねらいの違いによって、対応する観点が異なる。

### 2 今後の課題

指導と一体となった評価は生徒の励みとなり、その取り組みを通して音楽活動を豊かにしていくものである。そのための具体的な事例については、いくつか示すことができたが、今後も教師がそれぞれの実践をもとに、研究・開発していく姿勢をもつことが大切である。